

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970101960		
法人名	鹿野建設株式会社		
事業所名	グループホーム うつのみやファミリー		
所在地	栃木県宇都宮市岩曾町441-2 電話 028-689-3021		
自己評価作成日	平成 22 年12月 1日	評価結果市町村受理日	平成 23 年2 月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kai/gosi/p/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成 23 年 1 月 31 日	評価確定(合意)日	平成 23 年 2 月10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、のどかな田園風景の中にあり、四季折々の景観を楽しむ事ができます。家庭的な温かさのあるホームで、家事仕事の好きな方々と台所に立ち、調理をしたり、買い物に出掛けたり、ホーム内では歌を唄ったり、おはじきをしたり、お一人お一人に合わせた生活スタイルで生活を送って頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建て、2ユニットの事業所です。地域住民との交流を大切に地区の行事、公民館活動、近くの老人施設や乳児院の行事などにも積極的に参加し交流を持っています。また、近隣の小・中・高の運動会や文化祭に参加したり、七夕会には高校生と交流を持つのも特徴です。ボランティアも多く受け入れており、蕎麦打ちや、ひな祭りにはボランティアと一緒に楽しんだり、また、花見、紅葉狩り、益子方面の日帰り旅行でSLに乘車するなど外出の機会も多く持っています。今年度になって開設当時の職員の退職が相次ぎ職員の出入りが多くあり、業務の見直しを図りながら、管理者が先頭に立って職員と共に一丸となって事業所の理念である「家庭的なホーム」を目指し、サービスの質の維持向上に向けて日夜取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所者の方々が、地域の中で個性豊かに暮らして頂けるよう把握し、サービス提供できるよう独自の理念として作って、実践している。	家庭的な雰囲気の中で楽しく穏やかに生活していけるよう「家庭的なホーム」を理念としている。食事作りなどの家事を楽しみながら一緒にするよう心がけている。新人研修や会議等で理念を確認し合って実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、地域の中の暮らしを大切に、地域交流や近隣の方々とも日々の暮らしを通して伝えている。	地域の一員として地域の行事、公民館活動、近くの小・中・高の運動会や文化祭に参加したり、近隣の福祉施設の行事などにも参加し交流を持っている。散歩や買い物の折には近所の方と挨拶を交わしたり、お店の方と会話を持っており日常的に交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて	地域包括支援センターを通して認知症の方の御家族の相談を受けたり、認知症の方の対応をアドバイスしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、介護サービスについての取り組みや状況報告を行い、話し合った内容を職員に会議等で伝え、活かしている。	利用者家族代表、3名の地域包括支援センター職員、民生委員を委員として3回開催しており今後は定期開催を計画している。事業所の近況報告をし意見を聞いている。熱中症対策、玄関の施錠などについて話し合いアドバイスを受けている。	運営推進会議は定期的に(6回/年)開催し、早い時点で日時、議題などを知らせることも必要です。さらなる事業所運営への理解と協力を得るためにも、会議内容を委員、全家族に知らせる工夫をされることにも期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの方々と連絡を取り合い、ケアサービスについて御理解頂き協力関係を築いている。	包括支援センターとは日常的に連絡を取ってアドバイスを受たりケアサービスについて協力を得ている。市の担当者には事業所の実情や運営、加算体制などについての相談に出向くことが多くアドバイスを受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	駐車場・門の整備が困難で、入所者の方の安全性が保たれない恐れがあり、やむを得ず玄関の鍵は施錠しているが、できる限り一緒に行くなどして心に寄り添いケアに努めている。	身体拘束の具体的な行為を正しく理解するためにマニュアルを作成し研修を行っている。課題となっている玄関の施錠については今年度も運営推進会議に取り上げているが委員から安全性を考え施錠をした方が良いとの意見もある。利用者の外出希望に添って同行するなどの配慮をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームからの高齢者虐待防止に関する資料を会議で配布し話し合うなど、防止の意識が高まるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、グループホーム協議会からの高齢者虐待防止に関する資料を配布し、防止の意識が高まるよう努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際、契約書等十分に説明し、質問等受け、理解を得ている。解約の時もよく話し合いを持つようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「よろず相談・苦情箱」を設け、いつでも利用できるようにしている。又、運営推進会議を通して、運営に反映させている。	家族が気軽に電話や訪問ができ意見や要望が出せるよう家族との話し合いを大切に信頼関係を築くように努めている。玄関に「よろず相談・苦情箱」を設置しているが、利用されたことはない。	意見や苦情が潜在化していないか、常に積極的に問いかけ、聴く姿勢と共に事業所の取り組み内容を丁寧に説明する機会と場づくりにも期待します。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングや会議等、又は職員個々に意見交換を行い、反映させている。	月1回行われる職員会議、ミーティングや連絡ノートなどで職員の意見や要望を聴く機会を設けている。要望、意見の内容によっては管理者が幹部会議に提案しているが現状では反映されるまでには至っていない。	代表者、幹部が職員の要望や意見に耳を傾けることは働く意欲の向上やサービスの質の確保にも繋がることです。十分な話し合いが行われること、また利用者・家族の不安が発生しないよう配慮されることにも期待します。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年度より、人員の削減が図られ、業務を見直し努力しているが、厳しい状況にある。今後も話し合いを持ち、職場環境を向上させていきたい。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	公の研修については、積極的に勤めている。しかし、人員不足もあり、参加できない場合もある。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修や交流会に積極的に参加し、情報交換を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症ケアの基本として、入所者の方々との信頼関係を大切にしている。又、困っていることや不安がある時には、積極的に声掛けを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に当たり、御家族・担当ケアマネ等により、情報を収集し、どのような事で困っているか必ず確認している。介護計画にも取り入れている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族が、適切な介護サービスが受けられるよう対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、お互い喜怒哀楽を共にし、食卓を囲み、暮らしを共にしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と情報交換を密にして、より良い介護サービスを行えるよう常に努力している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人が長年通っていた店や自宅に、御家族と相談の上、出掛けるなど支援に努めている。	利用者一人ひとりの生活習慣を大切にし、馴染みの美容院やお店での買い物、会話などを楽しめるよう支援している。また家族と買い物をしたり食事をしたり、外泊をする利用者もあり、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方が、認知症による混乱がある場合、職員が間に入り人間関係が円滑に行くよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、様子確認に行くなど努力している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、御希望や思いを伺い、叶うよう努めている。また、コミュニケーションを大切に、本人本位になるよう努めている。	さりげない日常のコミュニケーションや表情、仕草などから汲み取るようにしている。日々生活を共にしていると身体全体から思いや暮らし方の希望、意向など、訴えかけてくるのを感じ取れるようになっている。得られた情報は個人記録に記入し、職員全員で共有し、本人本位になるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所者の各居室に、その方の馴染みの物を持って来て頂き、その方らしい暮らしができるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議等で、入所者の方々の心身状態や過ごし方などの情報交換を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を立てる際は、御家族より意向を伺い、反映させている。又、会議にて担当者が課題を抽出・話し合いし、決めている。	日頃より利用者、家族の意向を把握し、連絡ノートや個別の記録などを基に職員会議、カンファレンスで職員の意見や工夫を反映した介護計画を作成している。6ヶ月を基本に必要なに応じて見直しをしている。家族に報告し同意を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしについて、個別記録を記入し様子変化を捉えるようにしている。又、モニタリングに役立てている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模な施設なので、御本人や御家族の状況に合わせて、ニーズに対応して取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームは、地域密着型なので地域のボランティア・学校関係等、常に交流を持つよう努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人及び御家族と話し合った上で、かかりつけ医を決定し適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医の受診は原則家族が対応している。内科の協力医が2週間毎に看護師と共に往診をしている。昼夜緊急時の対応、病院の紹介や連絡などの協力を得ている。歯科医も2名の助手と共に週に1度往診し治療や磨き方などの指導をしており、適切な医療が受けられる関係を築いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診に来て下さっている病院の看護職員と気軽に相談できる関係となっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所の方が入院した時は、御家族・病院関係者等と密に連絡を取り合うようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の利用者がより良い暮らしができるよう、かかりつけ医と相談・支援していきたい。	重度化した場合や終末期の対応はしていない。重度化した場合は早い時点で利用者、家族の意向を確認し、かかりつけ医と相談し対応している。医療機関に入院した場合は管理者が訪問し、今後の対応について相談に応じている。	重度化や終末期に向けての各ステージで事業所として何処まで出来るのかを把握し対応を明文化しておくこと、利用者・家族への繰り返しの説明と同意を得ておくことに期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の方の急変に合わせて、対応できるようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自治会に加入して、災害時協力を得ることができるよう努めている。	避難訓練は消防署の協力を得て昼間を想定して年2回実施している。近隣の方にも連絡し自治会や地元消防団の方々との協力関係づくりにも心がけている。初期消火方法や119番への通報訓練、利用者の避難誘導訓練などを実施している。	夜間は各ユニット1名の勤務体制であり、夜間のみ勤務の新任者が多いことから夜間を想定した避難訓練を全職員参加で早期に実施されることを期待します。併せて近隣住民との協力体制が早期に確立することにも期待します。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーを尊重し、声掛けを行う。又、記録物が目に触れぬよう注意している。		一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として敬い言葉遣いや対応の仕方誇りやプライバシーを損ねないようにしている。同じ目線で話しかけ後からの呼びかけはしないよう心がけている。	言葉の内容や口調が気づかないうちにプライバシーを損ねていないか職員同士の確認に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを大切にして、希望や充実した生活が送れるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活様式を大切にして話し合い、御希望に添った形で支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、ボランティアの方に散髪を行って頂いているが、その他に御希望の理容室・美容室に行く方もいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者の方々にとって、食事は楽しみ事と捉え、嗜好を取り入れ一緒に作るよう努めている。又、片付けも行っている。		献立は職員が作成し、食材は利用者と一緒に購入している。利用者の嗜好、希望を取り入れたものとしている。自分の好みや得意な調理、配膳、後片付けなど職員と一緒に楽しみながら行っている。行事食も多く取り入れており、回転寿司などの外食は大人気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃より、食事量や栄養バランス等を観察している。嗜好を大切にするなどして、できるだけ安定的に摂取できるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入所者の方々の自尊心を傷つけないように声掛けを行い、口腔ケアを行って頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を把握して、その方に合った対策・対応をするよう努めている。		利用者の大半が自立排泄である。日頃接する中で一人ひとりの排泄パターンを把握しており、そっと声かけをしてトイレでの排泄を大切に支援している。失敗した場合には羞恥心や不安がないように配慮している。	一人ひとりの排泄パターンを記録、共有し活用することで自立排泄に繋がることに期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入所者の方のプライバシーを保てる範囲で確認を行い、一緒に原因を考え飲食物を工夫したり、運動するなど働きかけをしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は希望を伺い、その方に合わせた形で入浴が楽しめるよう支援している。		毎日午後の時間帯に利用者の希望に対応している。入浴を好まない利用者には個別に対応を工夫して入浴支援をしている。ゆず湯や菖蒲湯など季節の香りを楽しんだりしている。職員と1対1の入浴の場は信頼関係を築く良いチャンスでもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者の方の生活リズムを把握して、安心して休んで頂けるよう努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、病院・往診等で受診した内容について、連絡ノートで把握し、服薬の支援を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張り合いが持てるように、ケアを行っている。又、「できる」という実感が持てるよう役割作りを行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入所者の方々が、できる限り自由な暮らしができるように、御希望に合わせて外出するよう支援している。		その日の希望にそって事業所の周辺の散歩や、食材や日用品の買い物に出かけたりしている。初詣、地域の各種行事、花見、紅葉狩り、5月には日帰りの旅行など多くの外出支援をしている。利用者の希望によっては家族と相談して同行している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者の方の御希望に合わせて話し合い、所持して頂くようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常生活の中で、御希望に応じて電話をしたり手紙をやり取りするなど支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、居心地のよい雰囲気になるよう配慮し、生活感や季節感を取り入れている。	リビングの窓際にはソファが置かれ、新聞や本を読んだり、外の景色を眺めたり一人になれる場所がある。新しい入居者が増え生活の過ごし方も多様になり利用者同士の関係がスムーズに行くようCDなどの娯楽用品の整備に取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチがあったり、リビングにソファがあったりと、独りになれたりするよう配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、これまでの生活で使ってきた物、馴染みの物を持って来て頂き、居心地のよい空間となるようにしている。	家庭で使用していた馴染みのものを持参し家庭生活と遊離しないようにしている。家族の写真やご主人の位牌、孫からのプレゼント、絵手紙などを飾りその人らしい家庭的な雰囲気のある居室になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所者の方の持てる力を活かして、生活が出来るよう支援している。			